



久元 喜造

PROFILE

ひさもと・きそう 1954年兵庫区生まれ。神戸市立川池小学校（現会下山小学校）、小部小学校、山田中学校、灘高等学校を経て東京大学法学部に入学。76年に自治省（現総務省）に入り、自治行政局行政課長、大臣官房審議官、自治行政局選挙部長などを歴任。出向で京都府地方課長や札幌市財政局長なども務めた。自治行政局長を最後に総務省を辞職。2012年11月から13年6月まで神戸市副市長を務めた。

自分らしさを失わず ふるさと・神戸に恩返ししたい

長年、総務省で地方自治に携わり、2012年11月から今年6月まで神戸市副市長を務めた久元喜造さんに、生まれ育った神戸のまちの魅力や目指すべき将来像などを語っていただきました。

―神戸生まれ、神戸育ちとのこと。幼少期の思い出を聞かせてください

小学5年生まで新開地に住んでいました。そのころは、聚楽館などの劇場や多くの映画館があり、「東の浅草、西の新開地」と呼ばれ、娯楽のまちとしてにぎわっていました。

自宅2階の物干し場に上がるのと、どこからか三味線や小唄が聞こえてきたものです。

昨年、神戸市副市長を拝命して帰神し、40年ぶりに神戸で生活していますが、まちのどこを歩いても懐かしさを感じますね。特に湊川公園はよく遊んだ思い出の場所。神戸タ